

## 参考：地域資源の状況等

---

尼崎城の概要

旧城内中学校の概要

旧尼崎警察署の概要

埋蔵文化財、遺跡分布状況

契沖

地域資源図

上位・関連計画の概要

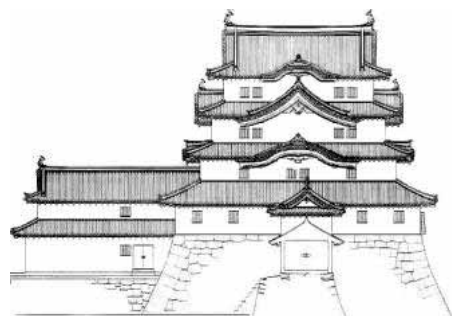
- ・第2次基本計画
- ・都市計画マスタープラン（阪神尼崎駅周辺地域）
- ・都市計画（用途地域図）
- ・阪神尼崎駅南地区都市再生整備計画



## 【尼崎城の概要】

### 尼崎城の成立

元和3(1617)年、幕府は譜代大名戸田氏鉄に5万石の領地を与え、尼崎に新しく城を築くことを命じた。氏鉄は翌年から築城に取りかかり、現在の南城内・北城内の地に数年をかけて尼崎城を完成させた。この城は別名「琴浦城」とも呼ばれ、海から見ると、海の上に浮かんだように見える美しい城であったといわれている。



尼崎城は、庄下川を西の外堀とする東西300メートル程の大きさで、甲子園球場の3~4倍の規模をもつ大きな城だった。このように5万石の大名にしては大きすぎる城を幕府がつくらせたのは、尼崎城が一大名の城というだけでなく、大坂城の西を守る役割を幕府が期待していたといわれている。

### 尼崎城の構造

尼崎城は、本丸を中心として、時計回りに二の丸・松の丸・南浜・西三の丸と渦巻状に外側へ広がり、さらに東側には東三の丸があった。本丸には4階建ての天守閣や本丸御殿が建てられていた。この本丸御殿は、藩主の住居としての役割と、尼崎藩の政務を行う役所としての役割をあわせ持つものであった。

### 尼崎城のその後

戸田氏の後、青山氏・松平氏(後の桜井氏)が尼崎藩主となり、松平氏第7代藩主松平忠興のときに明治維新を迎えた。明治6(1873)年のいわゆる廃城令により尼崎城は廃止が決まり、天守閣等の建物は取り壊され、堀も徐々に埋められていった。最後まで残っていた石垣も昭和30年代には消滅し、これにより尼崎城は地上から完全に姿を消すことになった。しかし、近年の発掘調査により、地下には石垣等の尼崎城の遺構が残されていることが判明している。



尼崎城跡推定図  
(出典：尼崎市教育委員会)

## 【旧城内中学校の概要】

建築時期	一部昭和8年(尼崎市立高等女学校として) 門柱は昭和2年	
敷地面積	17,955 m <sup>2</sup> (うち運動場 11,098 m <sup>2</sup> )	
建物延床面積	3F建て本校舎(5,405 m <sup>2</sup> ) 技術棟(255 m <sup>2</sup> )	体育館(1,273 m <sup>2</sup> ) その他(181 m <sup>2</sup> )

### 口の字型プラン

旧城内中学校を特徴づけているのはユニークな口の字型の平面形である。2棟並行配置はよく見られるが、扁平な口の字型校舎は珍しい。全体として片側廊下配置とし、採光確保と教室同士の干渉緩和をはかっている。適切な部屋配置と中庭の充実により、中庭と校舎が親密につながった学校空間を形成している。

### 特異な校門

校舎よりも古く、昭和2年に講堂の新築に伴い(S40除却)、正門を東側から北側に移築した際に建てられた。乱石積みの門柱の頂部に灯籠状の門灯を載せたかなり特異な校門である。

### 意匠的特徴

女学校としての配慮からか、控えめな中にも所々にモダンな装飾がなされ、落ち着いた雰囲気をつくっている。例えば、

- ・玄関ドアの両側に取りられた八角の窓(アールデコに東洋風の印象を加味したもの)
- ・玄関庇にある四角錐のガラスブロック
- ・腰壁のスクラッチタイル、床のモザイクタイル、壁・天井の漆喰
- ・階段室開口部の分節、主階段の手すり等の凝った造り など。

### 当初からの改変

外壁の塗り替え、講堂の建て替え、窓サッシの交換等の改変は見られるが、本体校舎の当初デザインはよく残っている。

参考:「尼崎市内の学校建築の歴史的意義とその利用上の可能性について」H13年11月 足立裕司(神戸大学)  
「創立二十五年史要」S14年3月 尼崎市立高等女学校校友会編集



### アールデコ

装飾美術の意。1910年代から30年代にかけて、パリを中心に西欧で栄えた装飾様式。それ以前のアール・ヌーボーが曲線を主とするのに対し、現代都市生活に適した実用的で単純・直線的なデザインを特徴とする。1925年様式ともいう。

## 【旧尼崎警察署の概要】

建築時期	大正 15 年
敷地面積	約 2,633 m <sup>2</sup> (798 坪)
建物延床面積	約 1,756 m <sup>2</sup> (532 坪)

### 経緯

明治 9 年はじめて当地に西宮警察署尼崎分署がおかれ、管轄変更等を経て、明治 15 年に伊丹警察署尼崎分署となる。大正 10 年頃から市民の間に改築の議がおこり、翌 11 年に市会決議、12 年に県会を通過し、大正 15 年 12 月（1926 年）に完成する。

### 意匠等の特徴

建物は鉄筋コンクリート造 3 階建て（1 階が半地下で 2 階部分が基準階であるため、地下 1 階、地上 2 階となる）正面中央部と両翼が背面に少し突き出た左右対称の平面形。当時の新聞では「表現派を加味したモダンルネサンス式」と伝えているが、「セセッション式」と呼ばれていた形式を継承していると思われる。玄関まわりの正方形の縁取りや玄関前の花鉢等にそうした雰囲気がよく表れている。

なお、平成 9 年 11 月に尼崎市都市美審議会から保存要望が出されている。

参考：「旧尼崎市市立城内児童館（旧尼崎警察署）の保存についての調査結果」H9 年 11 月尼崎市都市美審議会



#### モダンルネサンス

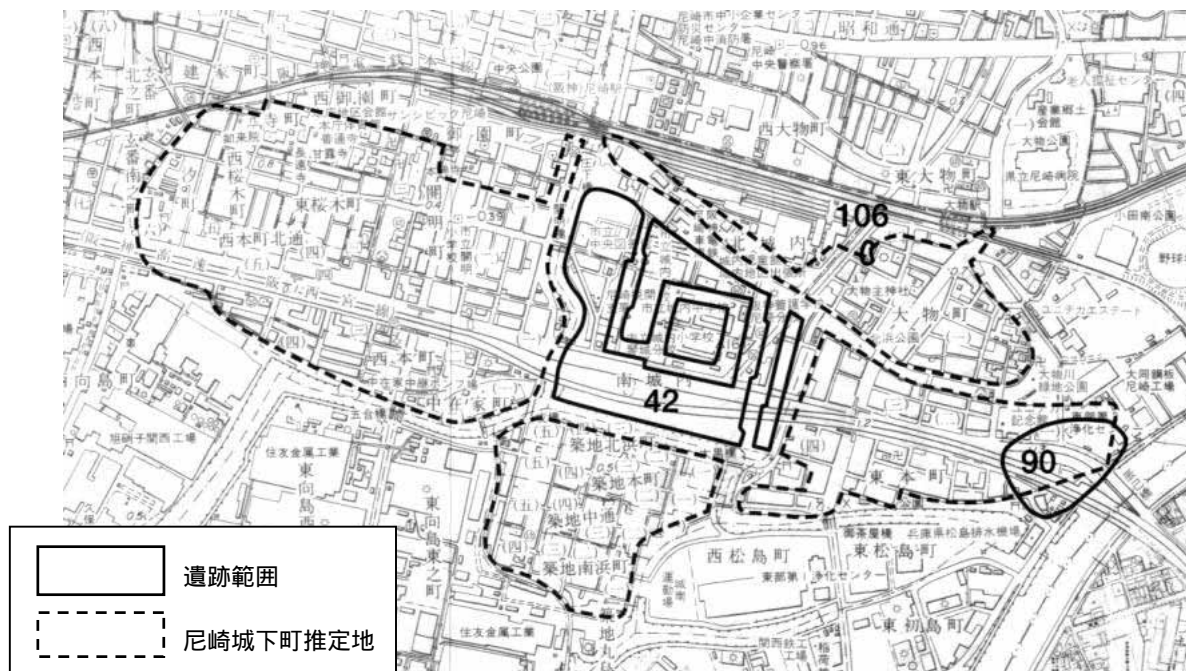
ルネサンスとは 15 世紀のイタリアで興りヨーロッパ全土に広がった、古代ローマ建築を規範とする古典主義建築で、左右対称など均衡のとれた明瞭さを特徴とする。近代的な機能主義的合理性の中に、ルネサンスの特徴を取り入れたものをモダンルネサンスと呼ぶと考えられる。

#### セセッション式

セセッションとは 19 世紀末、ドイツ・オーストリア各都市に興った絵画・建築・工芸の革新運動。過去の芸術様式から分離して、生活や機能と結びついた合理的で新しい造形芸術の創造をめざした。分離派とも呼ばれる。特に目立ったのは 1897 年に興ったウィーン分離派。

### 【埋蔵文化財、遺跡分布状況】

城内地区及び周辺では、「尼崎城跡（江戸時代）」、「辰巳橋遺跡（鎌倉～江戸時代）」、「大物遺跡（鎌倉～江戸時代）」の遺跡、及び尼崎城下町推定地が明らかになっている。



### 【契沖】

1640～1701年（寛永17～元禄14）僧契沖、諱（いみな）は空心。父下川元全（もとたけ）は尼崎藩青山幸成に仕えて250石扶持を給され、契沖は6男2女の第3子として尼崎に生まれる。

幼少より記憶力が抜群で、11歳で出家。大坂今里の妙法寺に入り、高野山を経て1663年（寛文3）頃、攝津国の曼陀羅院の住職となり阿闍梨位（あじゃりい）を得たが、長谷寺から室生寺に至り苦行、再び高野山に上った。後に和泉国の辻森家及び伏見家に寄寓。仏典・漢籍・悉曇（しったん）学及び和書を読破書写すること約9年にわたり、そのうち水戸光圀の依頼を受けて万葉集の注釈に心を傾け、1688年（元禄元）ころ『万葉代匠記』（初稿本）を完成したが、さらに手を加え1690年に『万葉代匠記』（精撰本）を献上した。

契沖は近世日本の生んだ鬼才であり、その学問は確乎たる文献的基礎の上に、独創的研究を行い、国学隆盛の基を築いた。国語学にも多くの著作があるが、いわゆる定家仮名遣いの誤りを正し、『和字正濫抄』を書いて、契沖仮名遣いを唱え、これは後に認められ歴史的仮名遣いとして定着した。実証主義、文献主義、合理的帰納主義という近代的方法を確立し、それまでの主観的、神がかり的、独断的古典研究を改める画期的業績を残し、その学統は荷田春満、本居宣長らに受け継がれた。大坂・高津の円殊庵にて62歳で没した。



契沖

「尼崎市地域史事典」 尼崎市立地域研究史料館編集より抜粋

## ■ 地域資源図



①大覚寺



②尼信記念館



③本興寺



④旧開明小学校



⑤城址公園



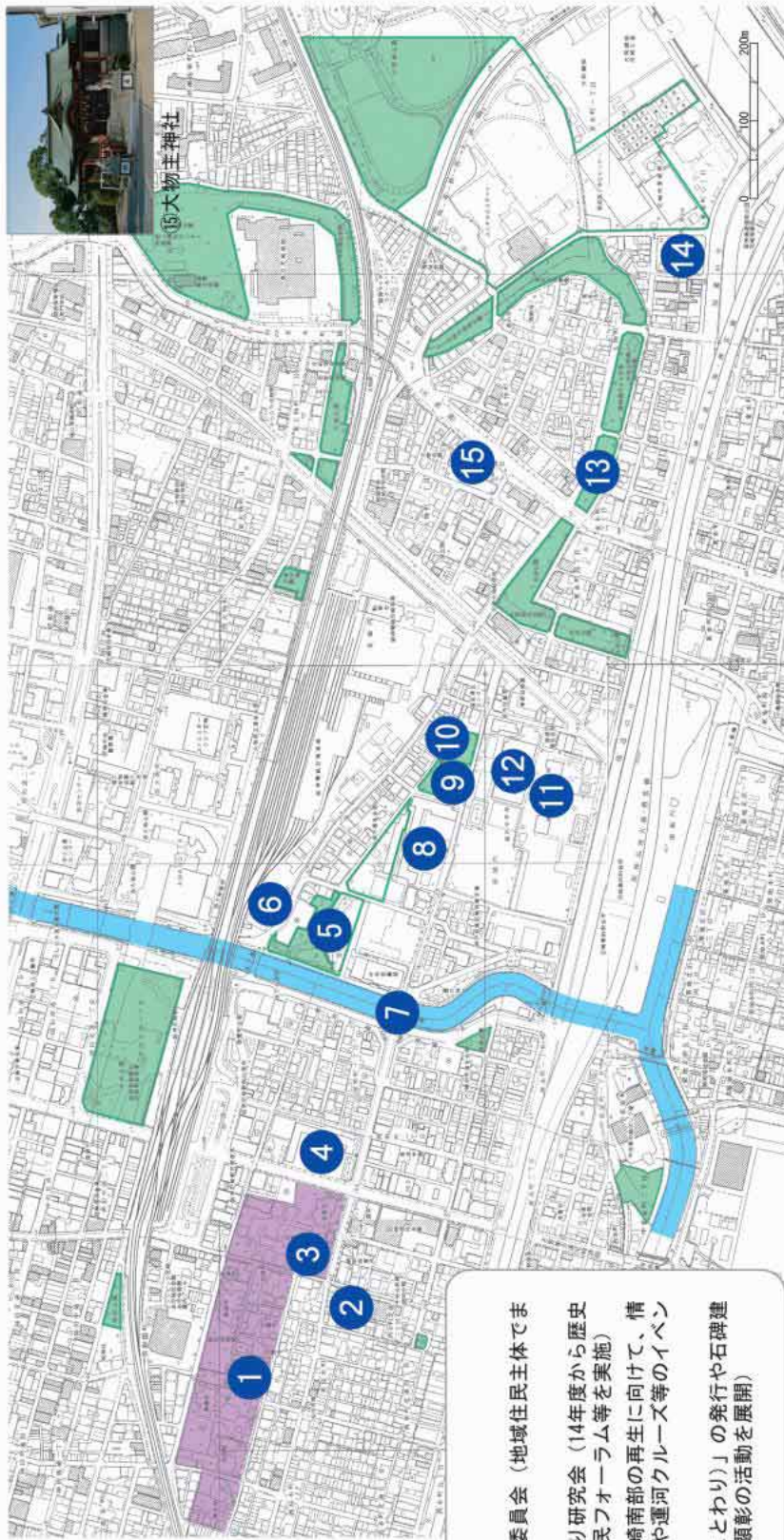
⑥阪神電鉄西倉庫  
(旧阪神電鉄発電所)



⑦下庄川と開明橋



⑧城内高校  
(旧尼崎市立尋常高等小学校)



### 【まちづくり活動の動向】

- 城内地区復興まちづくり委員会（地域住民主体でまちづくりを検討）
- あまがさき市民まちづくり研究会（14年度から歴史文化ゾーンをテーマに市民フォーラム等を実施）
- 尼崎南部再生研究室（尼崎南部の再生に向けて、情報誌「南部再生」の発行や運河クルーズ等のイベントを実施）
- 契沖研究会（会報「ことわり」の発行や石碑建立、説明板設置など契沖顕彰の活動を展開）



⑨旧尼崎警察署  
(旧城内児童館)



⑩三の丸公園



⑪明城小学校  
(旧城内小学校)



⑫旧城内中学校  
(旧尼崎市立高等女学校)



⑬大物川緑地



⑭ユニチカ記念館  
(旧尼崎紡績本社)

## 【上位・関連計画の概要】

### 第2次基本計画

#### 概要

位置づけ	平成3年策定の基本構想に基づき、計画的なまちづくりを推進するための、本市行政の最上位の計画。
計画期間	平成13年度(2001年度)～平成22年度(2010年度)までの10年間
計画の構成	総論：計画全体にかかる考え方 各論：6つの部門ごとの基本的な考え方と施策の展開方向 戦略プラン：重点的に取り組むまちづくりのプラン
施策の展開方向	人と地域が輝くまちにする 元気な産業をはぐくむまちにする 環境と共生するまちにする みんなが安心して暮らせるまちにする 学びあい、一人ひとりが力を出しあうまちにする 活気が生まれるまちに都市機能を再構築する
戦略プラン	協働型のまちづくりの仕組みをつくる 新しい技術と産業が生まれるまちをつくる 個性と魅力あふれるまちをつくる いきいき暮らすふれあいのまちをつくる

#### 歴史文化ゾーンの位置づけ

歴史文化ゾーンについては、「活気が生まれるまちに都市機能を再構築する」-「都心の整備」の項目において、下記のように位置づけられている。

歴史文化ゾーン については、都心地域の付加価値を高めるため、周辺の歴史的資産を含め、地域資産を活用しつつ、歴史、文化の視点から魅力づくりの取組を進めます。

歴史文化ゾーン：第2次基本計画では歴史文化ゾーンを、昭和58年2月策定のシビックゾーン構想を基に「寺町・尼崎城跡・築地を中心とするゾーン」としているが、平成17年度に設置した「城内地区まちづくり懇話会」からの「歴史文化ゾーン城内地区まちづくりの提言」の中で、『阪神尼崎駅の南に、城内を中心に寺町、大物、築地といった歴史文化エリアが展開し、城内エリアの歴史文化の拠点性を強化し、寺町～城内～大物・築地エリアとを結びつけることで、歴史文化のゾーンとして吸引力を増幅し、魅力的な都市イメージを発信していくことが重要である。』としていることから、本指針においては寺町～城内～大物・築地エリアを歴史文化ゾーンとして取扱う。

## 都市計画マスタープラン（阪神尼崎駅周辺地域）

### 地域の将来像

歴史が輝く城下町の雰囲気をかもしだし、にぎわいと活気のあるまち

- 水に育まれた城下町の歴史と文化を継承し、その面影を特徴づけるまちをめざす。
- 阪神間を代表する 21 世紀の都心にふさわしい都市機能が集積し、にぎわいと活気のあるまちをめざす。

### 主な整備方針

- 職住近接の複合住宅地としての住環境と生産環境・商業環境の調和
- 阪神尼崎駅周辺の都心としての土地利用の促進
- 築地地区の震災復興計画に基づく市街地の復興
- 寺町地区のまちなみの保全と形成の促進
- 国道 2 号沿道の不燃化の促進と国道 43 号沿道の広域防災帯としての防災機能の向上



## 都市計画（用途地域図）

阪神尼崎駅周辺が商業地域、開明地区が第二種住居地域、国道43号沿道が準住居地域、大物地区や阪神電鉄用地が準工業地域となっている。城内地区は大半が第一種住居地域となっている。



凡 例	
都市計画区域界(市域界)	———
市街化区域界	———
区 分	第一種住居地域 第一種中密度住居地域 第二種中密度住居地域 第一種住居地域 第二種住居地域 準住居地域 近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域 工業専用地域
容積率	第一種住居地域 60/150 第一種中密度住居地域 60/200 第二種中密度住居地域 60/200 第一種住居地域 60/200 第二種住居地域 60/200/300 準住居地域 60/200 近隣商業地域 80/200/400/600 商業地域 80/400/600 準工業地域 60/200 工業地域 60/200 工業専用地域 60/200
高度利用地区	———
港地区	———
都市計画道路	———
都市高速鉄道	———
都市計画公園(供用・未供用)	■
都市計画緑地(供用・未供用)	■
市街化調整事業	■
市街地再開発事業	■

阪神尼崎駅南地区 都市再生整備計画

地区名	阪神尼崎駅南地区
面積	7.5ha
計画期間	平成17年度～平成21年度
目標	<p>大目標：都心と歴史文化ゾーンとの調和したにぎわいのあるまちの創生</p> <p>目標1：安全で快適な都市居住の実現</p> <p>目標2：地域内のネットワーク化、バリアフリー化による高齢者・歩行者への配慮</p> <p>目標3：都心地域の玄関口としての交通結節点機能の整備</p> <p>目標4：地域コミュニティの形成</p>
整備方針と主要事業	
都市防災性・安全性の向上・生活サポート機能の充実	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街地再開発事業(阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業)</li> </ul> <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり活動推進事業(御園公園跡地有効活用調査)</li> </ul>
都心と周辺地域(寺町・歴史文化ゾーン)との回遊性の向上	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路(東町開明線)</li> <li>道路(庄下橋武庫川線)</li> <li>道路(市道第39号線の1)</li> </ul>
交通結節点機能の整備(五合橋線：駅南駅前広場整備)	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路(五合橋線：尼崎駅南駅前広場)</li> </ul>
地域コミュニティの形成(旧開明小学校の整備)	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存建造物活用事業(旧開明小学校コミュニティルーム等整備事業)</li> <li>地域生活基盤施設(開明中広場整備事業)</li> </ul> <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域創造支援事業(旧開明小学校活用事業)</li> </ul>

